

## 第1回大川国産材セミナーレポート

講師：中村製材所 中村展章氏

講師の中村さんに約1時間に渡り、国産材と輸入材の現状と今後の動向や、最近注目を集めるFSC認証についてプロジェクターを使って分かりやすくお話いただきました。

### 資源戦争

森林違法伐採摘発による伐採規制・輸出制限で計画伐採や植林木へ転換しつつあることと、中国・インド・中近東の経済成長による台頭で資源枯渇に拍車がかかり、まさに資源戦争といえる。

### ビジョン

そんな中、環境問題と安定供給可能な木材として、また再生・持続可能な数少ない資源として国産材の見直しが急務に行われている。

### 経緯

昭和30年後半は国産材が当たり前のように使われていた。主な使い方として、杉は集成し単板、椎はスラセ、タブは椅子等、チシャ・楠・栓は前板に使用されていたとのこと。昭和40年代になるとラワンなどの南洋材や合板、各種木質ボードなどの普及により、国産材の使用は減少していった。

### 木材の現況

国産材は戦後の人工林資源が伐採期で、蓄積量は40億M<sup>3</sup>、成長量は7,000万M<sup>3</sup>、伐採量は1,700万M<sup>3</sup>。

中国は年間木材消費量が2億3,800M<sup>3</sup>で米国に次ぐ世界第2位の輸入国であり、日本の3倍弱にあたる。ロシア材・南洋材・アフリカ材など世界各地より輸入しており、2015年には、4億8,000M<sup>3</sup>に達する見込み。

ロシアは針葉樹ではカラ松・アカ松、広葉樹ではナラ・タモなどを輸出。しかし、今後税率を上げるという政府の発表があり、3年後には2倍から多いものでは4倍にも上がる見込み。

### 国産材の政府政策・施策

国産材の政府政策・施策として、国産材シェアの拡大、国産材合板の利用促進、新生産システムの導入、流通改革(製材・加工体制の整備・安定供給)、木材産業の再生・森林整備、パルプ・チップ用材への需要拡大、海外市場の積極的拡大、木質バイオマス利用促進、違法伐採対策の推進などが進められている。

### 国産材の製材・乾燥・加工

製材 大小規模製材工場とのマッチング

乾燥 家具向け乾燥技術の確立

加工 家具向け集成材および積層材

### **国産材の流通**

森林 原木市場 製材所 製品市場 材木店 工務店・メーカー

### **国産材の特性**

長所としては、海外からの調達木材に比べ安定供給可能であること、とくに人工造林木のスギは柔軟で軽量であるということ、地球温暖化防止へ向けた取り組みのなか、循環型社会の形成 = 持続可能な社会が形成可能ということが挙げられる。

短所としては節の処理が必要、表面硬度がない、使った経験が少ないということが挙げられるが、この短所を逆手に取って、うまく利用していくことも可能である。

### **FSC 森林認証制度とは**

FSC (Forest Stewardship Council) 森林認証は、世界的な森林減少・劣化の問題と、違法伐採に対する消費者意識の高まりを背景として生まれた、「適切な森林管理」を認証する制度。認証された森林の林産物でできた製品には、FSC のロゴマークを付けることができ、消費者に対して違法伐採された材でないなど、森林にやさしい製品であることをわかりやすく伝える。

### **取り組み**

国産材使用の取り組み例として、諸富家具振興組合との JV 事例・大川家具工業会事例・各メーカー単位での独自開発の事例を写真と実物で紹介。

### **最後に**

ある機関の調査では、地球温暖化の原因の 90% は、人為的であると発表され、各企業・私たち一人ひとりの考え方や価値観を試されています。事業を通して環境との調和をいかにバランス取っていくか、また後世に引き継げるかが重要になります。国産材を使用することが森林を守り、CO2 削減にも直結します。グリーンコンシューマーへの商品展開など、まずは、できる事から始めましょう。